

八代市文化ホール等あり方に関する報告書

令和3年1月

八代市文化ホール等あり方検討会

目次

1. ホール施設の重要性	2
2. 八代市ホール施設の課題	3
3. 八代市ホール施設のあり方	4
(1)文化に対する理念や各ホールの特色づくりと連携	4
(2)市民協働(学生、地域住民、地元企業等)による企画・運営	4
(3)ソフト事業の更なる充実と事業のフィードバック	5
(4)管理体制の見直しと人材育成	5
(5)市内各ホール施設の今後の方向性	6
(6)本市文化の発展に向けた施設の検討と社会・財政状況に応じた効率化	7
4. 「八代市文化ホール等あり方検討会」検討経緯	8
(1)八代市文化ホール等あり方検討会 開催状況	8
(2)八代市文化ホール等あり方 市民アンケート調査	8
(3)検討会において提供、使用した資料	9
(4)八代市文化ホール等あり方検討会 委員名簿	10

1. ホール施設の重要性

文化芸術は、人々に感動や生きる喜びをもたらして人生を豊かにするものであり、社会全体を活性化するうえで大きな力となるものである。その役割は極めて重要であり、その中で文化施設は、人々が様々な文化芸術を身近で発表し、鑑賞し、体験する場として、さらには人々の交流を通して地域づくりに活かしていく拠点として大きな役割を担っている。

また、ホール施設（劇場、音楽堂等）の重要性について、国は平成24年に「劇場、音楽堂等の活性化に関する法律」を制定し、この法律において、「劇場、音楽堂等は、文化芸術を継承し、創造し、及び発信する場であり、また、人々が集い、人々に感動と希望をもたらし、人々の創造性を育み、人々が共に生きる絆を形成するための地域の文化拠点である。」とし、長期的な視点に立ち、戦略的な管理運営へ取り組むよう求めている。

八代市では平成27年度に策定した「厚生会館及び千丁・鏡文化センター運営方針」において「市民に良質な芸術文化の鑑賞と体験の場を提供することにより、八代市の文化をより多彩に、またより充実したものに育て、次世代へ継承させることを使命」としており、「八代市文化の発信基地」として位置づけを行っている。

また令和2年6月に実施した「文化ホール等あり方検討に関する市民アンケート」において「文化芸術活動を発表するうえでホールや会場があること」について「非常に大切」「ある程度大切」と回答した方が約88%を占めており、市民の方々にとってホール施設の必要性の高さがうかがえる。

2. 八代市ホール施設の課題

八代市は、八代市厚生会館、鏡文化センター、桜十字ホールやつしろ（ハーモニーホール）、八代市公民館（旧パトリア千丁）の4つのホール施設を有しており、これらの施設は、平成17年の市町村合併以前にそれぞれの地域で建設され、地域に根差した管理・運営を行ってきた。

しかしながら4施設ともに開館から数十年が経過し、様々な修繕や改修が必要になってきており、特に厚生会館については築58年が経過しようとする中で、老朽化や駐車場不足が、直面する大きな課題となっている。

また厚生会館以外の3施設はいずれも客席が500人規模の類似した施設であり、機能面で重複していることから、それぞれの施設ごとの特色ある取り組みが必要となっている。

その一方で「文化ホール等あり方検討に関する市民アンケート」において、過去3年間にホール施設等が実施する「自主文化事業」に1回以上参加されたことのある市民の方は15.6%にとどまっており、文化の拠点としての役割や市民のニーズに応えたプログラムを十分に果たせているとは言い難く、ハード整備のみならず、「八代市文化の発信基地」として「自主文化事業」等の新たな展開によるソフト面の充実や情報発信の強化に取り組む必要がある。

これらのことから、今後、少子高齢化・人口減少など、益々変化していく社会構造の中で、八代市の文化をより多彩に、またより充実したものに育て、次世代に継承していくための施設とするべく「八代市ホール施設のあり方」について検討を行ったので報告する。

3. 八代市ホール施設のあり方

(1)文化に対する理念や各ホールの特色づくりと連携

文化ホールのあり方として、まず行政側が文化に対する姿勢や文化ホールの役割についてしっかりと明文化し、各ホール施設がそれぞれの地域性や特徴を生かした継続的な取り組みを行いながら、市民が日頃から行ってみたいと思える魅力のある、文化の拠点としての役割を果たしていくことが重要である。

そのため、各ホール施設ごとのコンセプトを明確にし、地域に根差した取り組みを継続的に展開するなど、様々な工夫をしながらホールの特色を打ち出し市民に認知してもらうことが必要である。

また所管課や適用法の違いから生じる利用の不便さについては相互の連携を図りながら事業の棲み分けを行うなどして利用を促進し、幅広い多様なジャンルの事業に対応できるよう取り組みを行うことが必要である。

(2)市民協働(学生、地域住民、地元企業等)による企画・運営

市民の文化意識の向上やホールの効果的な利用を促進するためには、施設が市民にとって開かれた親しみやすい場所であるとともに、市民がより積極的に文化芸術に関わり、より身近に感じる取り組みを生み出していくことが求められる。

そのため、ホール施設における事業の企画運営をはじめ、舞台技術などにも市民参加の働きかけを行い、より主体的にホールに関われるような仕組みを作るとともに、学校や地域住民、地元企業などを巻き込み、互いの強みを生かしつつ連携をとりながら、市民全体で支えていく態勢を作っていくことが必要である。

また、ボランティアの育成・活用や友の会制度などにも取り組むことで、地域住民が地域のホールを愛し、誇りに思えるような働きかけを行うことが必要である。

(3) ソフト事業の更なる充実と事業のフィードバック

市民に文化芸術活動をより身近に感じてもらうためには、常に事業を運営方針等に照らしてフィードバックを行い、見直しや新たな企画に挑戦しながら、広く市民のニーズにこたえられるような事業展開をしていくことが重要である。

またコロナ禍により、人との距離感や関り方が希薄になっていく中で、ホール施設は表現の場、コミュニケーションを生み出す場として、市民の生きがい作りに繋がるものである。音楽や芸術に触れることで人々の絆を生み、心の豊かさを創造していくためにもホール施設の役割は重要であり、さらなる利用促進が求められる。

そのため、利用の少ない時間帯の活用促進や、ジャンル・年齢等の対象を絞ったプログラムの企画など、これまでホールに足を運ぶことの少なかった新たな利用者層の開拓が必要である。

更にコロナ禍において発表や鑑賞の機会が制限される中、市民の文化芸術活動を継続させていくためにも、映像配信事業など、新しい視点からの取り組みにも挑戦していく必要がある。

また単にホールの稼働率向上だけに目を向けるのではなく、未来への投資として、若い世代や幼い子供たちの教育の場としての活用に力を入れるとともに、市民がホール施設をより身近に感じ気軽に立ち寄れるように、ホール以外の場所を展示スペースやカフェなどとして日常的に有効活用できるような新たな取り組みも検討してもらいたい。

(4) 管理体制の見直しと人材育成

文化ホールがその役割を十分に果たすためには、専門的な知識や経験を持った人材の配置が必要であるとともに、ホール施設の活用や企画運営における相談窓口としての役割が求められる。また、地域との人脈を築き、文化人材とホールを結びつけ、より質の高い公演などを事業展開できるような体制作りが必要である。

そのため、行政が直接運営するのではなく、ふさわしい団体等に施設の管理運営を委託するなど、指定管理者制度の導入等も視野に入れ、長期的かつ専門的な知識や技術を持った人材の雇用が可能となるような見直しを図るべきである。

さらに、仮に指定管理者制度を導入する場合も、しっかりと地域に根差した取り組みを行い、単なる利益主義に陥らないよう常にチェックをし、指導助言を行っていくことが必要である。

(5)市内各ホール施設の今後の方向性

〔桜十字ホールやつしろ〕

市の中心部に位置し、駐車場も他ホールと比較して広いことから、様々な行事やイベントに活用されており、利用率も高い。

今後も更に市民の文化芸術の発表・鑑賞の場として利活用の促進を図るとともに、市民参加型の企画運営体制の導入や市民の文化意識向上のための事業の企画実施に取り組んでもらいたい。

〔鏡文化センター〕

市北部の重要な文化拠点であり、現在は市内で唯一自主文化事業を実施しているものの、市中心部から距離があり、立地面で不便な部分もあるため、他ホール施設と比較すると認知度が低く、更なる利用促進に努める必要がある。

今後、より積極的に文化団体や学校等と連携し、情報収集や情報発信及び事業の充実を図り、市民に広く親しまれる施設づくりに取り組むとともに、専門的人材の確保に向けた管理運営体制の見直しも検討してもらいたい。

〔八代市公民館〕

市の生涯学習の拠点施設としての重要な役割を担っているものの、教育施設として営利目的による利用に制限があるため、もっと利用しやすくして欲しいとの声もある。

このため表現活動の場として一層活用の幅を広げるため、ホール部分を公民館部分と分離して管理するなど管理運営体制の見直し等を検討してもらいたい。

また、慣れ親しんだ「パトリア千丁」という愛称を公民館ホールの後に付けるなど、千丁コミュニティーセンターと区別できるようにして欲しい。

〔厚生会館〕

著名な建築家により設計され近代建築としてその価値は高く、八代城跡をはじめ松

濱軒、博物館などの歴史的周辺環境とも調和した施設であることから、今後も市民が集える場所として利活用を期待したい。

しかし、その一方で建設から58年が経過し耐用年数も短いうえ、再開には多額の費用が見込まれる。さらに改修した場合でも座席数の減少や駐車場の不足、舞台設備等の使いづらさなど、様々な解消できない課題が残ることとなる。

これらの多様な要素を考慮しながら、市として慎重に検討を行い、その方針を示してもらいたい。

(6)本市文化の発展に向けた施設の検討と社会・財政状況に応じた効率化

市内の施設で質の高い文化芸術を鑑賞し、体験できるということは、市民の文化意識の向上に寄与する重要な要素であるとともに、市民に感動や活力を与え、心豊かな生活をおくるために大切なものである。

しかしながら、本市の各ホール施設の現状は、近隣自治体のホール施設と比較しても人口規模に対する座席数が少ないことから興行面での採算性が低く、質の高い多種多様な鑑賞機会の提供が極めて少ない状況にあるとともに、今後施設の老朽化による管理運営経費はますます増大していくことが懸念される。

市民が身近に質の高い文化芸術に触れ、感動し、創造性を育てていくためには、市民の発表の場としてのみならず、国内外の優れた舞台芸術公演の鑑賞ができるような、興行面でも採算性の高い十分な座席数を備えたホール施設が必要である。

そのため、中長期的な視点をもって施設の整理統合など財政的効率化を図りつつ、本市の優れた交通アクセスを活かした交流人口の拡大や観光産業発展につながり、ひいては市民の夢、希望となるような、新たな県南の拠点ホール施設の整備について検討してもらいたい。

4. 「八代市文化ホール等あり方検討会」検討経緯

(1) 八代市文化ホール等あり方検討会 開催状況

第1回 令和2年2月14日（金） 代陽コミュニティーセンター会議室

概要：会長及び副会長選出

検討会の目的や協議事項、今後の予定について

八代市の文化ホール等の現状について

市民アンケートの実施について

第2回 令和2年9月30日（水） 鏡文化センター研修室

概要：市民アンケート報告

ホールを活用した市民の文化意識向上・定着に向けた本市の運

営方針と取り組み

施設稼働率及び収益を上げるための取り組み

他の自治体での取り組みから見えるもの

第3回 令和2年11月6日（金） 八代市公民館研修室

概要：施設の効果的な活用策についての検討

第4回 令和2年12月25日（金） 代陽コミュニティーセンター会議室

概要：厚生会館の劣化度調査結果中間報告及び各施設の今後の改修の

見通しについて

八代市文化ホール等あり方に関する報告書（案）について

第5回 令和3年1月22日（金） 鏡文化センター研修室

概要：八代市文化ホール等あり方に関する報告書（案）について

(2) 八代市文化ホール等あり方 市民アンケート調査

実施期間 令和2年6月1日～令和2年6月15日

実施対象 18歳以上の市民3000人

有効回答数 1109件（37.0%）

調査結果 別紙「文化ホール等あり方検討に関する市民アンケート調査
結果報告書」のとおり

(3) 検討会において提供、使用した資料

- ① 劇場・音楽堂等の特徴的な取組に関する調査事業報告書（平成28年度文化庁委託事業）
- ② ホールを活用した市民の文化意識向上・定着に向けた本市の運営方針と取り組み
- ③ 施設稼働率および収益を上げるための取り組み
- ④ 指定管理制度とは
- ⑤ 他の自治体の文化ホール施設概要及び取り組み例（大分県日田市、山口県周南市、山口県宇部市、熊本県玉名市）
- ⑥ 八代市の文化ホール施設概要及び取り組み例
- ⑦ ホール運営や企画についての着眼点
- ⑧ 令和元年度県内自主文化事業実績及びホールの有効活用策
- ⑨ 熊本県内の主な公立文化施設のホール定員
- ⑩ 八代市厚生会館劣化度等調査業務 中間報告
- ⑪ 各施設の今後の改修の見通しについて

(4)八代市文化ホール等あり方検討委員会委員名簿

(50音順/敬称略)

番号	氏名	区分	備考
1	石本 愛	文化関係 ハーモニー利用	あったかハートふれあい劇団
2	岩崎 布見子	文化関係 千丁利用	ピアノ講師
3	柏 昭子	文化関係 日舞	市文化協会
4	川村 健治	イベント利用 県内全域	RKKメディアプランニング
5	多田 満	文化関係 施設運営	厚生会館文化センター運営審議会
6	丁畑 幸美	公募 子ども事業	やつしろ子ども劇場
7	中山 英朗	経済財務	市商工会議所
8	本田 恵介	文化関係 県内全域	熊本県立劇場
9	水本 和人	文化関係 鏡利用	鏡文化祭実行委員会
10	森山 学	建築関係	熊本高専八代キャンパス 建築社会デザイン工学科

※ 任期 令和2年2月14日～令和3年3月31日